

令和8年度 第1回（通算第60回）
山梨県立博物館 運営委員会 次第

令和8年4月23日（木）午後2時～4時
博物館 生涯学習室

開 会

1 あいさつ

2 議 事

〈 審議 〉

- (1) 令和9年度の企画展・シンボル展について 【資料1】
(2) 令和9年度の新規研究計画について 【資料2】

〈 報告 〉

- (1) やまなし人物探訪の運営について 【資料3】
(2) 甲州財閥顕彰強化事業について 【資料4】
(3) 歴民協年次集会の開催について 【資料6】
(4) 館内LED化作業にともなう臨時休館について 【資料5】
(5) 観覧料等の改定について 【資料7】
(6) 令和7年度の利用者状況について 【資料8】
(7) 開催済み展覧会について 【資料9】
・特別展「みんなのクルマ展」
・特別展「甲州財閥展」
・シンボル展「INDEN」
(8) 韓国清州博物館「富士山に登る、山梨」開催報告について 【資料10】
(9) 資料・情報委員会の答申状況について 【資料11】
(10) みんなでつくる博物館協議会の開催状況について 【資料12】

3 その他

閉 会

やまなし人物探訪の運営について

1. 経緯と課題

- ・ R7.10 山梨近代人物館の機能をやまなし人物探訪コーナーとして移設し、供用開始
※コーナー訪問者数累計 4,153 人 (R7.10.11-R8.4.10 の 6 ヶ月間)
 - ・ やまなし人物探訪コーナーでは、山梨近代人物館から継承したデータを用い、近代の当県ゆかりの人物 50 名を紹介している
 - ・ 運営委員会 (第 57 回～第 59 回) において山梨近代人物館の機能移転について報告した際、より広い時代の先人を紹介するよう意見をいただいていた
- (1) 現状は近代以前の人物紹介がないため、内容の拡充が必要
(2) 「山梨近代人物館」で開催していた普及事業を継承し、本県の歴史・人物に親しみを持ってもらうための講座を開催する

2. R8年度の取り組み

(1) やまなし人物探訪の拡充

① パネル展示

- ・ 近世の人物を紹介するパネル展示の実施 (例: 徳川綱豊、山県大弐、森嶋其進など)
- ・ 人物紹介作成にあたっては関係市町村への協力を仰ぐ
- ・ 「やまなし人物探訪展示先人選定委員会 (仮称)」を組織、選定基準や人物の選定などについて審議する (地域・分野・男女のバランスなども考慮)
- ・ 委員会で策定した方針に基づき、展示及びデータ作成を継続的に実施していく

② デジタルサイネージへのデータ登録

- ・ パネル展示の成果を活用してデータを登録し、公開する

【スケジュール案】

- ～ 5 月 委員候補への説明、選定基準・要綱の検討
- ～ 6 月 第 1 回委員会 (設立趣旨・選定基準・要綱の決定、人物候補の絞り込み)
- ～ 8 月 市町村調査 …人物に関する市町村への聞き取り
- ～ 10 月 第 2 回委員会 (人物選定) → パネル作成
- ～ 1 月 パネル展示の実施 (半年間程度を想定、以降順次展示を実施)
- ～ 3 月 デジタルサイネージ掲載コンテンツ作成・供用

(2) 「やまなし人物講座 (仮称)」の開催

- ・ 山梨近代人物館が行っていた教育普及事業 (「人物学講座」) を継承したもの
- ・ やまなし人物探訪の拡充とあわせ、人物に焦点をあてた講座を開催することで、本県ゆかりの人物や歴史に親しみを持ってもらう目的
- ・ 隔月開催 (奇数月の第 1・2 土曜・日曜のいずれかを想定)

甲州財閥顕彰強化事業について

1. 経緯

- 令和 7 年 10 月 11 日～12 月 1 日
 - ・開館 20 周年記念特別展「甲州財閥展」開催。
- 同年 11 月 22 日
 - ・知事甲州財閥展視察。
- 同年 12 月 2 日
 - ・知事から観光文化・スポーツ部長に甲州財閥展の成果「常設化」の方向性について指示。
- 令和 8 年 1 月 6 日
 - ・庁内で甲州財閥の顕彰強化（「甲州財閥展」成果の常設化）について知事協議。
こども向け教材の製作・配布と製作済みの甲州財閥展図録の学校向け配布について了承。
- 同年 1 月 6 日・9 日・2 月 23 日
 - ・県議会・県職員・一般県民向け講座の実施。
- 同年 3 月 19 日～22 日
 - ・鹿児島県歴史・美術センター黎明館など先行施設視察。

2. 令和 8 年度の取り組み

(1) 子ども向け冊子の製作

- ・イラスト・図版を多用した入門的教材として 32 ページの紙冊子（甲州財閥概説 4 ページ、7 人の群像紹介各 4 ページ）及び電子冊子を作成し、小学校高学年を対象に、甲州財閥の歴史や人物・メッセージを学ぶ機会を提供。
- ・県内小学校の 5・6 年生、教員、図書室・県内公立図書館等に、冊子 18,000 冊を作成・配布。
- ・文化振興・文化財課および県教委義務教育課と連携して推進する。

(2) 甲州財閥展図録の増刷

- ・研究成果を体系化した図録を県内小・中・高校・特別支援学校 344 校の図書室に各 2 冊配布し、学術的・記録的価値を担保する専門資料として位置づけ、教員の授業準備や生徒の調べ学習において、より深い学習を支える基盤とする。

(3) その他の課題

- ・常設展示室の強化（「甲州財閥展」成果の常設化）に向けた検討。

3. 今後の予定

- 令和 8 年 4 月～
 - ・文化振興・文化財課および義務教育課と子ども向け冊子の企画内容会議を実施。
- 同年 9 月以降
 - ・子ども向け冊子の刊行。「甲州財閥展」図録とともに各学校へ発送。

歴民協年次集会の開催について

○全国歴史民俗系博物館協議会(略称・歴民協)

- ・歴史系民俗博物館で構成される全国組織（全国9ブロック・815館）。
- ・東日本大震災を機に、人文系博物館の連絡組織の不在が明らかになったことで設立された（平成24年6月設立、発起人：平川南当館名誉館長）。
- ・有形無形の文化資源の保存と活用に努める全国の歴史民俗系博物館の交流と連携により、歴史と文化が地域社会の基盤として不可欠であるという理念に基づいて、社会に貢献することを目的としている。
- ・事務局：国立歴史民俗博物館・東京都江戸東京博物館
- ・当館は中部ブロックの幹事館（名古屋市博物館も中部ブロック幹事館、幹事館はブロックごとに1館以上置かれている）。
- ・令和8年度、当館は全国の代表幹事館となり、年次集会（全国大会）を本県で開催することになった。

(参考)

- ・令和7年度年次集会概要

日程：令和7年7月10日（木）

開催場所：香川県立ミュージアム

テーマ：何を集めるのか、どうのこすのか—博物館資料と社会—

※ブロック内博物館職員による4つの研修報告、討論を実施

参加者：62名

- ・年次集会終了後、香川県立ミュージアム隣接のホールにおいて情報交換会の実施。
- ・翌11日（金）は香川県内ミュージアムを参加者任意・個別に観覧。

○令和8年度 歴民協年次集会 開催案

【日程】

令和8年7月23日（木） 臨時幹事館会・年次集会・情報交換会

24日（金） 県内施設見学（任意・個別）

※事前に幹事館会をリモート、総会を書面で開催

【年次集会テーマ】

ミュージアムの持続的運営に向けた課題と展望

【当日進行案】

午前 臨時幹事館会（生涯学習室）

13:00 年次集会 開会（生涯学習室）

13:10 研究集会

報告1「地方博物館の資料収集－クラウドファンディングの挑戦－」

笹本正治氏（長野県立歴史館参与）

報告2「新規博物館の現状と課題（仮題）」

鈴木将典氏（静岡市歴史博物館学芸員）

報告3「小さな地域博物館の挑戦

－南アルプス市の^{まるまる}博物館活動とデジタル化（仮題）」

中山誠二氏（南アルプス市ふるさと文化伝承館館長）

報告4「オーバーツーリズムと博物館運営（仮題）」

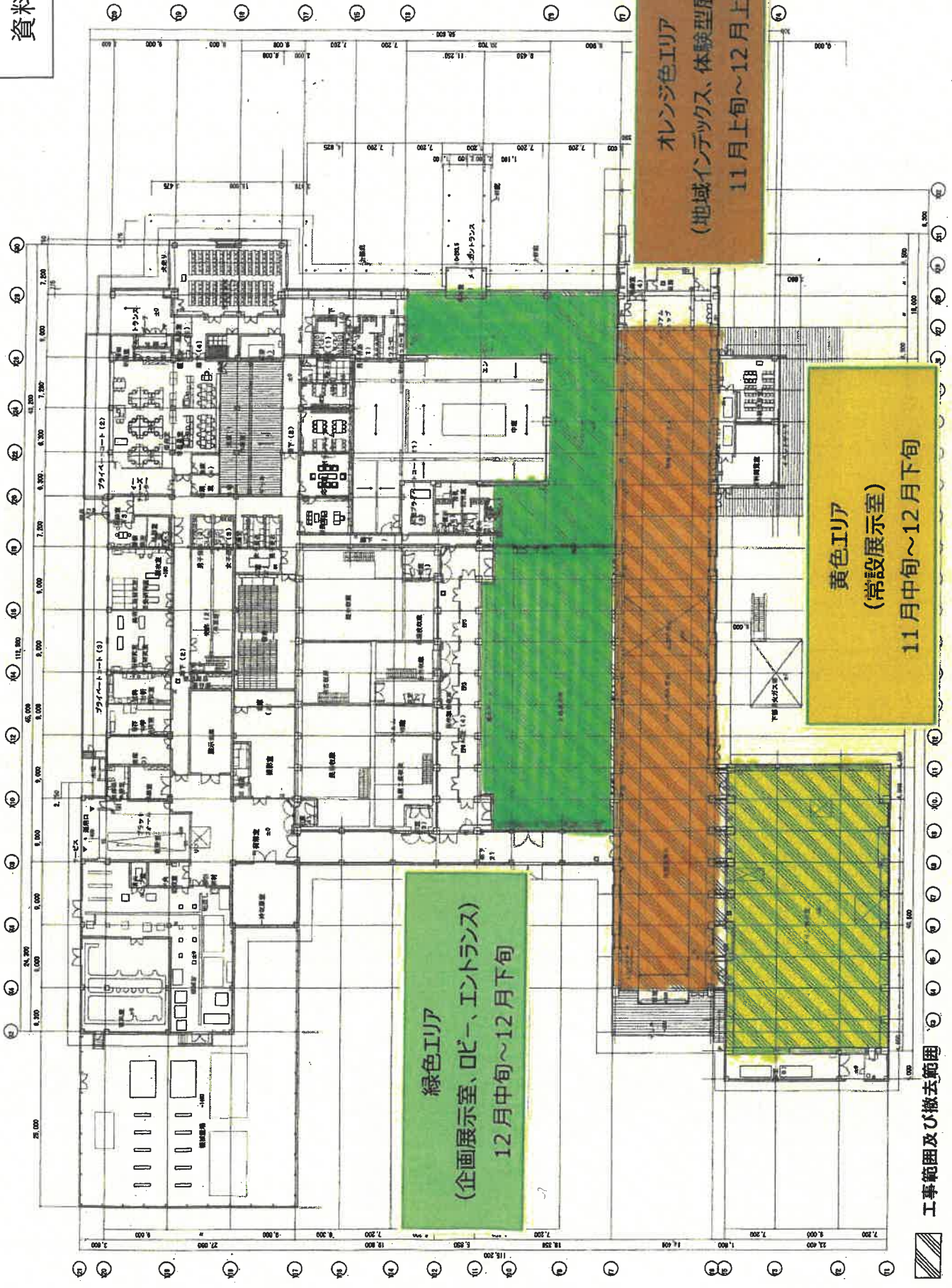
布施光敏氏

（ふじさんミュージアム館長・富士吉田市教育委員会歴史文化課課長）

討論

17:00 閉会

18:00 情報交換会（於：ホテル八田）



工事範囲及び撤去範囲



2026年度 かじあむカレンダー

1 →開館日(午前9:00～午後5:00 最終入場は4:30) 2 →休館日

※ 悪天候や感染症対策などの理由により、臨時に休館する場合がある。

年間開館日304日(休館日61日)

4月 卯月 April

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

3/14～5/6 「山梨の禅宗文化」

7月 文月 July

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

7/18～9/7 「ゆるキャン△と山梨」

10月 神無月 October

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

10/10～11/30 「甲斐絹物語」

2027 1月 睦月 January

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

31

1/23～2/23
「大善寺不動明王像」

5月 皐月 May

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

31

5/23～6/29
「地方病」流行終息30年

8月 葉月 August

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

30 31

11月 霜月 November

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

31

2月 如月 February

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28		

29

6月 水無月 June

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

9月 長月 September

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

30

12月 師走 December

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

30 31

3月 弥生 March

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

31

3/13～5/5
「徳川家康と甲斐」

山梨県立博物館設置及び管理条例（別表）

資料 7

令和 8 年定例県議会 提案理由説明（抄）

物価高騰など最近の社会情勢に鑑み、県の事務に係る手数料や、施設等の使用料の改定を行う

常設展

区分	観覧料(円)	
	個人	団体
一般	520	420
大学生, 準ずる者	220	170
小・中・高校生, 準ずる者	無料	

※R9.4.1施行

観覧料(円)	
個人	団体
580	470
250	190
無料	

改定率

観覧料	
個人	団体
112%	112%
114%	112%
無料	

企画展

次の表に定める観覧料の額の範囲内で、それぞれの展示ごとに知事が定める額

区分	観覧料(円)	
	個人	団体
一般	1,100	880
大学生, 準ずる者	550	440
小・中・高校生, 準ずる者	無料	

観覧料(円)	
個人	団体
1,240	990
620	490
無料	

観覧料	
個人	団体
113%	113%
113%	111%
無料	

（単館）定期観覧

区分	観覧料(円)
一般	2,100
大学生, 準ずる者	1,050

観覧料(円)
2,370
1,190

観覧料
113%
113%

資料撮影

区分	利用料(円)
学術研究を目的とする場合	490/点・日
出版等の収入を伴う場合	6,270/点・日

利用料(円)
550/点・日
7,040/点・日

利用料
112%
112%

施設利用

区分	利用料(円)
生涯学習室一	470/時間
生涯学習室二	330/時間
交流室	120/時間

利用料(円)
530/時間
370/時間
140/時間

利用料
113%
112%
117%

山梨県立美術館等の観覧等の特例に関する条例（別表）

（4館共通）定期観覧

区分	観覧料(円)
一般	5,240
大学生, 準ずる者	2,620

観覧料(円)
5,970
2,990

観覧料
114%
114%

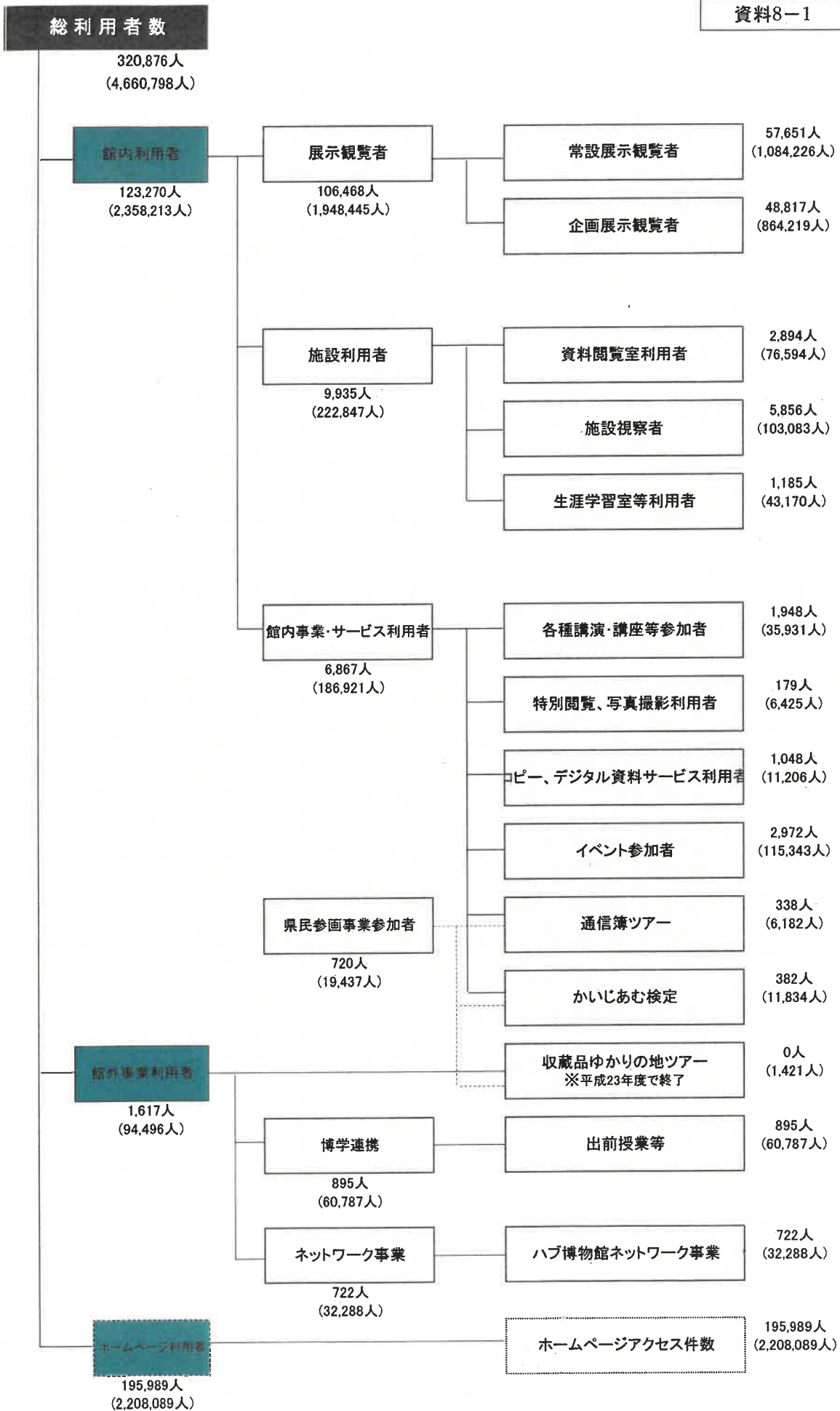
山梨県立博物館設置及び管理条例施行規則

規則の概要（抄）

最近の社会経済情勢等に鑑み、高齢者に対する減免措置の見直しを行う

※R9.4.1施行

新	旧
<p>(観覧料等の免除)</p> <p>第十条 条例第十条の特別の理由は次の各号のいずれかに掲げる場合に該当することとし、免除の額は当該各号に定めるとおりとする。</p> <p>一 略</p> <p>二 六十五歳以上の者（県内に住所を有しない者を除く。）が観覧するとき _____</p> <p>_____</p> <p>条例別表第一に定める観覧料の全額</p> <p>三～九 略</p> <p>2～5 略</p>	<p>(観覧料等の免除)</p> <p>第十条 条例第十条の特別の理由は次の各号のいずれかに掲げる場合に該当することとし、免除の額は当該各号に定めるとおりとする。</p> <p>一 略</p> <p>二 六十五歳以上の者 _____</p> <p>_____が観覧するとき（県内に住所を有しない者にあつては、常設の展示に限る。）</p> <p>_____</p> <p>条例別表第一に定める観覧料の全額</p> <p>三～九 略</p> <p>2～5 略</p>



※()内の数値は平成17年度分から令和6年度1月分までの実績数値の総計である。

■開館年度(平成17年度)から令和7年度までの年度別統計

総利用者	館内利用者 (a+b+c)										館外利用者										
	展示利用者 (a)		施設利用者 (b)		館内事業・サービス利用者 (c)						博士選抜		博士選抜	博士選抜							
	常設展示 (券券数)	企画展示 (券券数)	資料閲覧 利用者	施設観察者 等利用者	生涯学習室 等利用者	講座・講演会 特別閲覧・ 写真撮影等 利用者	特別閲覧・ 写真撮影等 利用者	セミナー・ ワークショップ 参加者	イベント 参加者	通信簿 ツアー 参加者	かいじあひ 検定	取組品作り の地ツアー 受講者	取組品作り の地ツアー 受講者	ネットワー ク事業	ホームページ 利用者						
17年度	143,415	114,412	98,578	66,274	32,304	10,889	6,085	1,190	3,614	4,945	1,321	92	209	2,911	180	232	433	282	151	0	28,570
18年度	221,107	149,254	124,182	92,277	31,905	16,043	7,957	3,874	4,412	9,029	2,604	263	479	5,213	345	125	1,451	185	156	1,100	70,402
19年度	203,261	126,055	105,596	66,291	39,305	13,908	7,306	3,486	3,116	6,551	1,515	219	496	3,861	240	220	4,833	166	1,317	3,350	72,373
20年度	169,893	97,551	73,419	49,634	23,785	12,461	4,754	4,262	3,445	11,671	1,649	265	549	8,613	143	452	2,781	180	1,076	1,525	69,561
21年度	233,815	145,172	119,288	59,508	59,780	13,034	4,399	6,940	1,995	12,850	3,553	330	488	7,029	231	1,219	5,194	274	3,871	1,049	83,449
22年度	231,389	145,518	112,363	56,505	55,858	17,855	4,060	11,718	2,077	15,300	2,937	83	444	11,121	188	527	3,728	141	2,670	917	82,123
23年度	200,843	112,026	90,090	49,858	40,232	12,558	3,354	6,800	2,404	9,378	2,473	276	402	4,943	166	1,118	4,658	183	3,721	754	84,159
24年度	200,181	107,246	86,695	49,341	37,354	11,120	2,993	4,769	3,368	9,431	3,003	306	427	4,633	183	879	7,110	0	6,077	1,033	85,825
25年度	213,116	121,898	101,746	57,860	43,886	10,900	4,067	4,295	2,538	9,252	1,635	422	453	5,443	468	831	7,220	0	6,350	870	83,988
26年度	200,624	109,888	92,621	47,119	45,502	9,334	3,609	3,373	2,352	7,933	1,139	278	359	5,312	364	481	5,548	0	4,740	808	85,188
27年度	252,303	155,517	135,417	57,879	77,538	11,273	4,140	5,241	1,892	8,827	1,309	306	343	5,673	396	800	5,303	0	4,434	869	91,483
28年度	202,665	97,898	75,051	41,133	33,918	9,405	2,924	4,569	1,912	13,442	2,105	335	545	9,431	267	759	10,071	0	4,327	5,744	94,686
29年度	236,110	131,264	105,822	55,118	50,704	10,563	3,191	5,818	1,554	14,879	1,190	310	728	11,604	240	807	6,646	0	4,207	2,439	98,200
30年度	221,157	111,385	89,066	45,437	43,629	11,097	3,483	5,142	2,472	11,202	1,241	818	725	7,253	400	765	8,122	0	3,862	4,260	101,670
31・1年度	236,880	116,491	96,081	47,775	48,306	11,173	3,200	6,117	1,856	9,237	1,602	748	729	5,072	271	815	9,486	0	4,701	4,785	110,903
2年度	148,749	36,078	31,602	20,689	10,933	2,599	67	2,240	292	1,877	185	400	100	627	278	287	1,953	0	1,953	0	110,718
3年度	228,571	78,785	69,266	34,963	34,303	6,254	1,423	4,129	702	3,265	644	240	377	1,370	470	164	2,888	0	2,988	0	146,788
4年度	267,334	95,740	80,035	42,870	37,165	8,398	2,382	5,416	600	7,307	1,403	209	387	4,467	400	441	2,044	0	1,575	469	169,550
5年度	261,855	94,510	80,589	43,364	37,225	6,997	1,882	4,244	891	6,924	1,097	191	754	4,371	276	235	1,838	0	1,111	727	165,507
6年度	266,674	88,275	74,470	42,700	31,770	7,051	2,454	4,104	493	6,754	1,378	155	1,164	3,424	338	295	1,472	0	605	867	176,927
7年度	320,876	123,270	106,468	57,651	48,817	9,935	2,894	5,856	1,185	6,867	1,948	179	1,046	2,972	338	382	1,617	0	895	722	195,989
計	4,660,798	2,358,213	1,948,445	1,084,226	864,219	222,847	76,594	103,083	43,170	186,921	35,931	6,425	11,206	115,343	6,182	11,834	94,496	1,421	60,787	32,288	2,208,089

■R7年度 県立博物館利用者状況(月別集計)

総利用者	館内利用者 (a+b+c)										館外利用者										
	展示利用者 (a)		施設利用者 (b)		館内事業・サービス利用者 (c)						博士選抜		博士選抜	博士選抜							
	常設展示 (券券数)	企画展示 (券券数)	資料閲覧 利用者	施設観察者 等利用者	生涯学習室 等利用者	講座・講演会 特別閲覧・ 写真撮影等 利用者	特別閲覧・ 写真撮影等 利用者	セミナー・ ワークショップ 参加者	イベント 参加者	通信簿 ツアー 参加者	かいじあひ 検定	取組品作り の地ツアー 受講者	取組品作り の地ツアー 受講者	ネットワー ク事業	ホームページ 利用者						
4月	27,425	10,064	8,225	6,198	7,152	1,369	504	838	27	1,073	857	11	126	79	0	0	10	0	10	0	17,351
5月	20,114	4,687	3,941	4,962	3,263	943	296	605	42	896	44	14	108	730	0	0	47	0	14	33	15,380
6月	17,541	4,687	3,941	3,941	0	465	204	205	56	281	160	15	59	47	0	0	12	0	12	0	12,842
7月	45,423	16,644	15,620	6,751	8,869	799	288	417	94	225	34	19	98	74	0	0	679	0	0	0	28,100
8月	63,431	31,972	28,947	12,482	16,465	2,243	521	1,632	90	782	121	12	204	445	0	0	0	0	0	0	31,459
9月	18,291	3,382	2,966	2,526	440	274	106	92	76	142	33	13	50	46	0	0	165	0	165	0	14,744
10月	22,675	8,239	7,483	4,251	3,232	544	161	223	160	212	104	16	73	19	0	0	72	0	72	0	14,364
11月	27,024	13,897	11,493	5,648	5,845	1,414	261	970	183	990	223	27	119	621	0	0	0	0	0	0	13,127
12月	9,512	1,815	1,435	1,116	319	326	72	74	180	54	0	8	34	12	0	0	58	0	58	0	7,639
1月	20,266	4,629	2,615	2,615	0	382	141	134	107	1,632	39	8	55	820	338	372	312	0	312	0	15,325
2月	15,502	3,458	2,768	2,768	0	441	137	235	69	249	130	11	49	49	0	10	252	0	252	0	11,792
3月	22,567	8,691	7,625	4,393	3,232	735	203	431	101	331	203	25	73	30	0	0	10	0	0	0	13,866
計	320,876	123,270	106,468	57,651	48,817	9,935	2,894	5,856	1,185	6,867	1,948	179	1,046	2,972	338	382	1,617	0	895	722	195,989

開館 20 周年記念特別展 「みんなのクルマ」 終了報告

1. 概要

【内 容】

山梨は古くから交通の結節点であった。かつて人々や牛馬は峠を越え、川を船が走り、さまざまな人物や物資、文化が甲斐国を行き来していた。その流れとスピードを大きく変えたもののひとつが「クルマ」であった。ごく一部の人々のものであったクルマは、やがて庶民の足となり、身近な存在へと変わっていった。そしてクルマは時代を通じてステータスシンボルでもあり、「憧れ」の対象であり、「未来」の象徴であり続けている。本展では、クルマが大衆化していく過程をたどるとともに、各時代を彩った魅力的なクルマもあわせて紹介する。

【期 間】 令和 7 年 7 月 1 2 日（土）～ 9 月 1 日（月）
会期日数 5 2 日（開館日数 4 7 日）

【主 催】 山梨県立博物館、山梨日日新聞社、山梨放送

【観覧料】 一般 1, 0 0 0（8 4 0）円、大学生 5 0 0（4 2 0）円
※（ ）内は 2 0 名以上の団体料金、県内宿泊者割引
※ 常設+企画共通 一般 1, 2 6 0 円、大学生 5 9 0 円

【主な展示資料】

「マクラレーン・Honda MP4/4」（Honda Collection Hall 蔵）、「マツダコスモスポーツ試作車」（国立科学博物館蔵）、「国際通運株式会社 社旗」（物流博物館蔵）、「Milburn 電気自動車」（国立科学博物館蔵）、「国際公園富士五湖 未来之図」（ふじさんミュージアム蔵）、「トヨペットクラウン RS」（トヨタ博物館蔵）、「スバル 3 6 0 DELUX」（Honda Collection Hall 蔵）、「トヨタ 2000GT」（トヨタ博物館蔵）、「カーマスコット「大トンプ」」（トヨタ博物館蔵）、「国産オートモ小型自動車 2586」（東京都江戸東京博物館蔵）等 1 0 7 件。

【関連イベント】

○講演会

「日本の自動車のルーツを探るー蒸気からガソリン、そして未来へー」

講師：榊原康裕氏（トヨタ博物館館長）

日時：8 月 2 日（土） 1 3 : 3 0 ~ 1 4 : 3 0

場所：生涯学習室

参加者：7 7 名

○SUPER GT 参戦レーシングカー特別展示

日時：7 月 1 9 日（土） 1 0 : 0 0 ~ 1 6 : 0 0

場所：博物館西側職員駐車場付近、正面エントランス付近

展示車両：KONDO RACING 56号車（NISSAN GT-R NISMO GT3）

エンジン始動イベント：①11:00②14:00（いずれも5分程度）

○はたらくクルマ野外展示

日時

- ・7月25日（金） 13:30～16:00 パトカー
- ・8月15日（金） 13:30～16:00 消防車
- ・8月17日（日） 10:00～15:00 自衛隊車両
- ・8月30日（土） 13:30～16:00 バス

場所：正面エントランス付近

○学芸員によるギャラリートーク

日時：7月20日（日）、7月26日（土）、8月9日（土）、8月24日（日）
いずれも15:00から1時間程度

【発行物】 図録 A4変形・140頁 800部（館内用）

2. 入場者数

【入館者数】 26,646名（1日平均入館者数：566名）

3. 広報

【印刷物】 ・ポスター B2 1000枚
・ちらし A4 30,000枚

【マスコミでの紹介】 ・報道番組（山梨放送）、新聞記事（山日新聞 連載など）、
SNS（山梨日日新聞社・山梨放送）

4. 総括

- ・「クルマ」を歴史的に紹介する内容で、展示資料もバラエティに富む内容とすることができた。協力をいただいた企業博物館（トヨタ博物館など）からは、専門館では工業史・産業史ではないクルマ・クルマの文化史を紹介することはなく、歴史博物館ならではの消費文化を歴史からひもとく新たな切り口であり、専門館ではなしえない展示との評価を得た。当館としても企業博物館等、博物館同士の関係性を拡大することができた。
- ・来館者の反応も、車両のみを観覧するというより、車両をとおして当時の生活や社会に思いをはせる様子が見受けられた。
- ・大型の車両を展示するにあたり、搬入経路の確保、他の展覧会との調整も含めたスケジュール管理が困難だった。
- ・夏休みの展覧会にふさわしく親子連れの来館者も多かったが、なかでも父親が子どもを伴う姿が多い印象を受けた。
- ・本展にあわせ、「クルマにまつわる思い出募集」を実施し、県民参画型（応募は県民に限らず）の展示とすることができた。有効な応募は全〇〇件、そのうちの一部を図録・展覧会中のパネル掲示で紹介したほか、すべてをホームページに掲載し公開した。
- ・本展ポスターは山梨広告賞奨励賞を受賞した。

令和 7 年度 開館 20 周年記念特別展
「甲州財閥展」
終了報告

1. 概要

【内 容】

「甲州財閥」とは、山梨県が輩出した財界人・投資家グループの総称であり、地縁的な協力関係や、鉄道や電力事業への関与とその革新に特徴がある。代表的存在である若尾逸平（南アルプス市出身）は、根津嘉一郎に対して「株を買うなら将来性のあるものでなければならない。それは乗り物（鉄道）と灯り（電力）だ」とアドバイスしたとされている。彼ら甲州財閥の活躍は、近代日本の経済発展を象徴するものであり、彼らが着目した視点とその豊かさを築いた道のりは、現在の私たちにとっても多くの示唆に富んでいる。本展では彼らの先進的な取り組みを紹介するとともに、文化・芸術上の足跡や、地元・山梨や現在にもつながっているさまざまな功績を紹介し、転機を迎える私たちへのヒントを見つけていただく機会としていく。

【期 間】 令和 7 年 10 月 11 日（土）～12 月 1 日（月）
会期日数 5 2 日（開館日数 4 5 日）

【主 催】 山梨県立博物館、山梨日日新聞社、山梨放送

【後 援】 朝日新聞甲府総局、エフエム甲府、エフエム富士、産経新聞甲府支局、
テレビ朝日甲府支局、テレビ山梨、毎日新聞甲府支局、山梨新報社、
山梨中央銀行、読売新聞甲府支局

【協 力】 株式会社ニッポン、公益財団法人 阪急文化財団、東武鉄道株式会社、
日本通運株式会社、阪急電鉄株式会社、富士急行株式会社、
山梨交通株式会社

【協 賛】 日本ネットワークサービス

【観覧料】 常設展観覧料 一般 1, 0 0 0（8 4 0）円、大学生 5 0 0（4 2 0）円
※（）内は 20 名以上の団体料金、県内宿泊者割引

【展示構成と主な展示資料】 展示資料数 148 点

○はじめに 【近代化の涯で甲州財閥を見つめなおす意味】

○第 1 章 甲州の民（みん）の力が切り開く近代

- ・ 神名川横浜新開港図 歌川貞秀筆（当館蔵）
- ・ 内藤文治良『若尾逸平』（当館蔵）
- ・ 小林一三『私の行き方』（当館蔵）

○第2章 功成り名を遂げる 甲州財閥の群像

- ・若尾逸平一代図屏風 中澤年章筆（南アルプス市立美術館蔵）
- ・「精力」若尾逸平筆（個人蔵）
- ・華甲祝賀書画帖（軽井沢町歴史民俗資料館蔵）
- ・兩宮の還暦の記念品として造られた茶釜（個人蔵）
- ・初代根津嘉一郎社長の安全に関する訓示（東武博物館蔵）
- ・成器舎日誌（阪急文化財団 池田文庫蔵）

○第3章 近代文化史上に輝く遺産

- ・若尾謹之助「おもちゃ籠」（当館蔵）
- ・花白河蒔絵硯箱 写し（根津美術館蔵・個人蔵）
- ・唐物文琳茶入 銘 白玉（根津美術館蔵）
- ・高橋義雄書簡（阪急文化財団 逸翁美術館蔵）
- ・朱地君が代楽譜蒔絵棗 愈好斎好 三砂良哉作（阪急文化財団 逸翁美術館蔵）
- ・根津ピアノ（甲府市藤村記念館蔵）
- ・根津嘉一郎翁の像 小池藤雄作（山梨県立図書館蔵）
- ・早川徳次「社員読本」（個人蔵）

○第4章 公益とその先へ 甲州財閥の業績

- ・佐竹作太郎書簡（東電買収につき）（山梨中銀金融資料館蔵）
- ・皇国第一等之温泉 豆州熱海全図（個人蔵）
- ・ポスター原画「東洋唯一の地下鉄道」 杉浦非水筆（地下鉄博物館蔵）
- ・五島慶太差出早川徳次宛書簡（個人蔵）
- ・箕面電車回遊双六（阪急文化財団 池田文庫蔵）

○第5章 山梨にのこる甲州財閥の足跡

- ・中央線開通祝賀式・笹子隧道記念碑除幕式案内状（山梨中銀金融資料館蔵）
- ・堀内良平談話筆記（『渋沢栄一伝記資料』稿本第51巻）（渋沢史料館蔵）
- ・富士身延鉄道沿線名所図絵 吉田初三郎筆（当館蔵）

○おわりに 【甲州財閥ののこしたのちから問われる豊かさ】

【関連イベント】

○記念講演会① 「甲州財閥—鉄道事業を中心に—」

- ・講 師 齋藤康彦氏（山梨大学名誉教授）
- ・日 時 令和7年10月19日（日）午後1時30分から3時まで
- ・会 場 生涯学習室
- ・参加者 66名

○記念講演会② 「山梨の鉄道人たち」

- ・講 師 江宮隆之氏（作家）
- ・日 時 同11月2日（日）午後1時30分から3時まで
- ・会 場 生涯学習室
- ・参加者 90名

○かいじあむ講座 「ちょっとくわしい甲州財閥展」

- ・講 師 小畑茂雄（山梨県立博物館学芸員）
- ・日 時 同 11 月 24 日（月・振休）午後 1 時 30 分から 3 時 30 分まで
- ・会 場 生涯学習室
- ・参加者 84 名

○根津ピアノコンサート

- ・演 奏 遠藤結惟さん（第 26 回ショパン国際ピアノコンクール in Asia コンチェルト AA 部門 銀賞受賞）
- ・日 時 同 11 月 30 日（日）午前 11 時から 12 時まで
- ・会 場 企画展ロビー

○担当学芸員によるギャラリートーク

- ・日 時 同 10 月 11 日（土）、15 日（水）、11 月 8 日（土）、16 日（日）、30 日（日）
午後 3 時から 1 時間程度
- ・会 場 生涯学習室

○かいじあむ寺子屋ひろば

- ・県民の日の紙芝居～甲州財閥スペシャル～
紙芝居「根津嘉一郎物語」ほか 日時 令和 7 年 11 月 20 日（木）
10 時から 15 時まで

【発行物】

- ・『甲州財閥展』展示図録 A4 変形判・144 頁
（頒価 2,200 円 ミュージアムショップで 765 部販売済みのほか、一般書店および amazon などの通販でも販売）

2. 入場者数

【入館者数】 10, 224 名（1 日平均：227 名）

3. 広 報

- 【印刷物】 ・ポスター B2 1, 000 枚 B3 200 枚
・ちらし A4 30, 000 枚
- 【マスコミでの紹介】 ・新聞広告、テレビCMなど

4. 総 括

- ・入場者数は秋期としては平均的（開館～令和 6 の秋期企画展の 1 日平均人数 227 人と一致）だったものの、展示図録の販売数が大きく伸びる反響を起こした。
- ・広報上のイメージ戦略として、取り扱う甲州財閥の人物の姿を古写真ではなくイラストとして、ソフトなイメージ展開を狙った。
- ・会場内は実物資料を中心とした一般的な展示としたが、入口（改札）付近および展示室のラストには、主催の山梨放送製作の既存のテレビ番組「やまなしレトロモダン」の映像を活用し、展示で紹介される人物や資料についての情報の補強をおこなった。

- ・ロビーにはレッドカーペットを敷き詰め、壁面のメイングラフィック（ポスターと同デザイン）と一体感のある空間構成をおこなった。
- ・楽器（現役で音の出る）の資料である「根津ピアノ」の特性を活かして、「根津ピアノコンサート」を実施した。
- ・近現代中心の展示であることを活かして、古写真などを活用した壁面演出や空間的な仕切りとなる大型グラフィックを多用し、臨場感のある展示室構成とした。
- ・甲州財閥という固い展示になりやすいことから、「日本で初めてを実現した」といった身近なきっかけを担保する形を取り、雨宮敬次郎が実現したオーマイパスタ（日本初の民間機械製粉業・泰靖社→日本製粉→ニッポン）といった切り口を用意した。
- ・甲州財閥の人物（像）も十分に着目し「人物を理解する」展示としつつも、人物から山梨という地域を析出させることを狙う「人物で理解する」展示とした。
- ・山梨近代人物館 10 年間 20 回の期間展示の成果の公表という背景から、従来の甲州財閥研究や認識から部分的に深化をもたらしつつ、視点の拡大を図る展示として実現することができた。

令和7年度 冬期シンボル展
「INDEN～受け継ぐ手わざ、異国の薫り～」終了報告

1. 概要

【内容】

山梨の土産や名産品のひとつに、甲州印伝がある。一説には、「印伝」の意味は「インド伝来」であるとされている。また、奈良の東大寺の宝物には、鹿革に燻の技法で模様を施したと考えられる葡萄唐草文の革管が伝来している。美しい装飾革は、どのような歴史をたどって山梨の名産品になっていったのか。かつてつくられていたさまざまな技法による印伝や、印伝にまつわる歴史資料からその道のりをたどった。

【期間】 令和8年1月2日（金）から同年2月23日（月）
会期日数53日（開館日数46日）

【主催】 山梨県立博物館

【会場】 企画展示室（5/6）

【観覧料】 常設展観覧料（一般520円、大学生220円） ※高校生以下無料

【展示構成】 ①さまざまな装飾革と印伝

東大寺の葡萄唐草文染韋や小桜韋威鎧 兜・大袖付など、印伝につながる装飾革を紹介した。

②甲州印伝の誕生とひろがり

明治時代以降、殖産興業政策や観光旅行の発展とともに、「甲州印伝」として名乗りを上げ、知名度を上げていく山梨の印伝産業の様子を紹介した。

③受け継ぐということ

昭和時代後期以降の甲州印伝がブランド化やコラボレーションなど新しい試みを行っていく様子や、社会問題に対するアプローチにも取り組む現代の甲州印伝の産業界の様子を紹介した。

【主な展示資料】 小桜韋威鎧 兜・大袖付復元制作時の染韋ハギレ（当館蔵）、『甲府買物独案内』（当館蔵）、「木喰上人作 木彫仏 甲種」（当館蔵）、「松皮印伝」 蓑入（印傳博物館蔵）、第四回パリ万国博覧会出品時メダル（印傳博物館蔵）、株式会社印傳屋上原勇七オリジナルブランド「Carray」（印傳博物館蔵）、「ゆるキャン△」コラボレーション商品（印伝の山本蔵）、オリジナル印伝小銭入（個人蔵、印伝の山本制作）、URUSHINASHIKA「SAIKA」（印伝の山本蔵）

計80点

【関連イベント】

○ギャラリー・トーク 1月18日（日）、2月15日（日）

※いずれも14:00～15:00

○あそぼう！まなぼう！寺子屋ひろば「印伝調模様の小物入れを作ろう」1月24日（土）
11:00～11:30 参加無料 定員：15名

○かいじあむ子ども工房 「鹿革のはぎれとまゆ玉をつかってひなかざりを作ろう」2月14日（土曜）①10時30分から ②13時30分から 協力：有限会社印伝の山本
参加無料、定員：各回4組

【リーフレット】 A4判二つ折り 4頁 4,000部（無料配布）

2. 入場者数

【入館者数】 5,538人（1日平均：120人）

3. 広報

【印刷物】 ・ポスター B2 600枚
・ちらし A4 20,000枚

4. 総括

- ・ 展覧会の調査過程において、山梨の印伝が近代以降に山梨の名産品となっていた過程を明らかにすることができた。
- ・ 印伝関係者だけでなく、漆生産など周辺産業に関わる方の来館が見られた。一般来館者は、女性の来館者が多く見られた。また、印伝展を目的とした県外からの来館者も見られた。印伝の知名度や、山梨の印伝生産者の取り組み（URUSHINASHIKA など）に対する関心の高さ、印伝愛好者の層の厚さがうかがえた。
- ・ 展示室内に印傳博物館のチラシを設置したところ、印傳博物館に足を延ばした来館者が複数いたとの報告を受けており、ハブ博物館としての機能を果たすことができた。
- ・ ミュージアムショップにおいて印傳屋上原勇七と印伝の山本の商品を販売したところ、非常に好評であった。展示を通じた知識の取得や理解の深化が、技術継承の基盤となる消費活動につながる好循環を生み出したことは、博物館が地域社会に直接的に貢献できることを示す好例である。
- ・ 調査過程において山梨県外の印伝生産者とのコンタクトも取ったが出品が叶わず、全国の印伝生産から山梨を照射することができなかったことは、非常に残念であった。

日韓国交正常化 60 周年記念 共同特別展 「富士山に登る、山梨」開催報告

1. 経緯

- 平成 20 年 (2008) 12 月、大韓民国 国立清州博物館との間で学術交流協定を締結。
- 令和 6 年 (2024) 4 月、国立清州博物館のイ・ヤンス館長が山梨を訪問し、「日韓国交正常化 60 周年記念 交流展示に関する大韓民国国立清州博物館と日本国山梨県立博物館の間の了解覚書」を締結。以後、特別展に向けた準備を進める。

2. 概要

- テーマ：富士山に登る、山梨 (韓国語名称：후지산에 오르다, 야마나시山梨)
- 会 期：2025 年 9 月 4 日～12 月 28 日 (116 日間)
- 会 場：国立清州博物館 企画展示室
- 展示内容：第 1 部「富士山に登る第一歩：自然が息づく山梨」(主に縄文)
第 2 部「山に囲まれた盆地：山梨、仏教と武士の時代」(主に古代中世)
第 3 部「登る：大衆文化の隆盛と浮世絵」(主に近世近代)
特別コーナー「山梨とともに：協力の物語」(両館の協力関係や浅川兄弟による交流)
- 展示資料：
葛飾北斎 富嶽三十六景 (山梨県立博物館)、甲州道中図屏風 (山梨県指定文化財、山梨県立博物館)、
酒呑場遺跡出土 深鉢形土器 (重要文化財、山梨県立考古博物館)、甲斐国分寺跡出土瓦 (笛吹市教育委員会)、石の坪遺跡出土 土偶 (韮崎市教育委員会) 他 73 件
- 関連行事：「特別展連携招待講演会」
 - ・日時：2025 年 9 月 5 日 (土) 午後 1 時 30 分～5 時
 - ・場所：国立清州博物館 大講堂
 - ・内容・講師：「富士山の信仰と美術」守屋正彦 (館長)
「山梨県における縄文時代の歴史と文化」高橋龍三郎 (県立考古博物館長)
- 入場者数：37,109 人 (観覧料は無料)

3. 総括

- ・両館の学術交流に基づく初めての特別展開催となり、当館所蔵資料の中でも特に著名なものを中心に出品したほか、県立考古博物館所蔵の縄文土器、市町村教育委員会所蔵資料など、山梨の歴史・文化を物語る代表的な資料を出品した。清州博物館にとっても初の国際展示であったことから、通常より多くの予算を

確保して展示準備にあたったという。

- ・ 展覧会名称は清州博物館が考案。展示構成も、当館で提案した展示内容・資料をもとに清州博物館で策定したもの。当館では文化財海外貸出（輸出）のための諸手続き、出品資料の解説文作成、画像や動画の提供などを担当した。また貸出～輸送～展示作業と、撤収作業～輸送～返却には、当館職員も立会い、資料の安全な取り扱いに万全を期した。ただし輸出関係手続きで、関係書類の準備が遅くなり、提出が期限間際となったのは反省点である。
- ・ 入場者数は清州博物館の特別展の中でも歴代 2 位、利用者の満足度は歴代 1 位を記録するなど、非常に高い評価を得た。来館者は忠清北道内だけでなく、ソウルなど遠方から団体バスで来訪することも多かったという。
- ・ 本展開催の経験・教訓をもとに、来年度開催予定の「忠清北道展（仮称）」の準備を進めたい。



特別展開幕式
(9月4日)

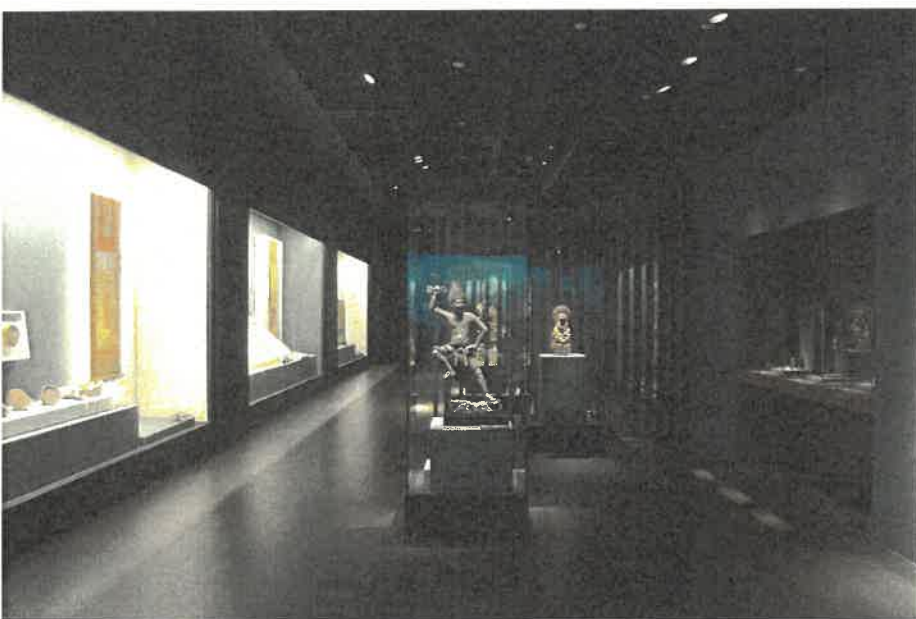


記念講演会

(守屋館長、9月5日)



展示室の状況 1



展示室の状況 2



最終日の状況
(12月28日)
※会期中最多となる
2,657名/日を記録

資料・情報委員会の答申状況について

1. 令和7年度 資料・情報委員会委員一覧(50音順、敬称略)

氏名	専門分野	肩書
新井 勝紘	日本近代史	元専修大学教授
黒田 基樹	日本中世史	駿河台大学法学部長
小島 孝夫	民俗学	成城大学教授
鈴木 卓治	情報工学	国立歴史民俗博物館教授
鈴木 麻里子	日本美術史（彫刻）	山梨県文化財保護審議会委員
内藤 正人	日本美術史（絵画）	慶應義塾大学教授
新津 健	考古学	元山梨県埋蔵文化財センター所長
西村 慎太郎	日本近世史	国文学研究資料館教授

※任期は2年間（R7.5.1～R9.4.30）

2. 令和7年度 第1回(通算第40回)委員会の内容

【開催日時】令和7年8月6日（水）14:00～16:00

【出席者】新井勝紘委員・黒田基樹委員・小島孝夫委員・鈴木卓治委員・

鈴木麻里子副委員長・内藤正人委員・新津健委員長・西村慎太郎委員

【審議内容】

資料の収集について

11件（約4,659点）の収集資料候補（購入・寄贈・寄託）についての審議を行った。

【審議資料】

(1) 購入 2件

1	武田勝頼天目山陣取 <small>たけだ かつより てんもくざん じんとり</small>	1点	武田勝頼が天目山に陣を張る姿が描き出された、大判錦絵3枚続の作例。天目山の戦いによって武田氏は滅亡するが、最後の戦い前の勝頼軍の様子が題材となったものと考えられる。
2	雨宮敬次郎還暦記念品の茶釜 <small>あまみやけいじろう かんれき きねんひん ちやがま</small>	1点	雨宮敬次郎の還暦を記念して、雨宮が経営する仙人鉄山・製鉄所（岩手県北上市）から産出・製造された鉄を原材料として制作された茶釜。表面には「雨宮」の文字と馬の姿が描かれている。

(2) 寄贈 7件

1	わたなべあきしやうぞう 渡邊壽肖像	1 幅	浮世絵師の歌川国芳によって描かれた、渡邊青洲の義父である、壽の肖像画。壽、信（青洲）、澤次郎の三代にわたって集められた蔵書が青洲文庫となった。
2	うただけしりやう 歌田家資料	約 1500 点	下円井村（現韮崎市）諏訪明神神主を勤めた歌田家に伝来した資料群。歌田家は幕末期に断金隊に参加する歌田靱雄を排出したことから、同隊にまつわる資料も含まれている。今回、寄託から寄贈への切り替えとなる。
3	くつまけしりやう 沓間家資料	140 点	旧一宮町国分の石船神社の宮司であった沓間家に伝来した古文書群。『山梨県史』で調査・整理が行われている。今回、神主の衣装などを追加した上で、寄託から寄贈へと切り替えとなる。
4	こうふくうしゅうしりやう 甲府空襲で使用 された M69 焼夷弾	1 点	米軍が日本本土空襲で使用した油脂焼夷弾。上空から本資料（M69）が 38 本集束された状態（E46 集束焼夷弾）で投下され、設定された高度で解束し、家屋の屋根などに突き刺さり発火する機能を持っていた。
5	わかおまさひろけしりやう 若尾昌宏家資料	10 点	若尾家の末裔に伝来する資料。書を趣味とした若尾逸平の晩年の揮毫や履歴書、一族にまつわる古写真などから構成される。
6	わかおいついっおしりやう 若尾逸生家資料	3 点	若尾家の末裔に伝来する資料。書を趣味とした若尾逸平の晩年の揮毫を使用した米寿の記念額、若尾逸平 80 歳の時の揮毫、甲府市愛宕町にあった銅像のミニチュアから構成される。
7	うちだたかししゅうしりやう 内田孝氏収集資料	約 3000 点	内田孝氏が収集した近世から近現代にかけての資料群。書簡や土地関係の古文書、近代の交通関係の資料のほか、河西豊太郎の家や銀行経営に関する資料が多数を占める。

(3) 寄託 2件

1	わにぐち 鱈口	1 口	山梨市にある柚口金櫻神社に伝来する鱈口。表面に「柚口村米澤山雲峯禅寺」「延宝元年癸丑」などの刻銘がある。
---	------------	-----	------------------------------------------------------

2	孫子の旗 <small>そんし なた</small>	1 旗	武田信玄の軍旗として知られる旗。紺に染めた平織りの地絹を縦3枚につなぎ、上・左縁に洗革の乳を38か所つけた大旗で、古代中国の兵法書『孫子』にみえる文句「疾如風、徐如林、侵掠如火、不動如山」の文字を金泥で大書する。
---	-------------------------------	-----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【審議結果】

すべて収集が適正であると判断され、8月12日付けで答申が出された。

3. 令和7年度 第2回(通算第41回)委員会の内容

【開催日時】 令和8年3月27日(金) 14:00~16:00

【出席者】 新井勝紘委員・小島孝夫委員・鈴木卓治委員・
鈴木麻里子副委員長・内藤正人委員・新津健委員長
※黒田基樹委員・西村慎太郎委員は欠席

【審議内容】

資料の収集について

7件(約46点)の収集資料候補(購入・寄贈・寄託)についての審議を行った。

(1) 購入 2件

1	武田信玄書状 <small>たけだしんげんしよじょう</small> (7月16日付、 丹後法印あて)	1 通	武田信玄が大坂本願寺の僧侶である丹後法印(下間頼総)に送った書状。越中国(富山県)方面の軍事情勢を伝え、本願寺の支援を依頼している。
2	古甲金 <small>ここうきん</small> (松木壺分判) <small>まつまいちがぼん</small>	1 枚	甲州金のうち、17世紀までに製造された「古甲金」に類する一分判。松木家が製造したもので、当時最も多く流通した甲州金の一種である。

(2) 寄贈 2件

1	甲斐国金峰山金桜 <small>かいのくにきんがきんかなざくら</small> 神社御嶽山晩春之 図	1 幅	金峰山の里宮である御嶽金桜神社から山頂の本宮、五丈岩に至る登山道を描いている。周辺に末社などが山中に点在する様子が描かれており、金峰山の信仰世界を象徴している。
2	竹居協議会の葬儀 <small>たけいぎょうかい</small> 用具(霊柩車および 祭壇) <small>そうぎ ようぐ れいきゆうしや さいだん</small>	1 括	竹居協議会が管理した共有財産のうち、霊柩車1台と祭壇2基を中心とした資料。八代町竹居区の楞嚴寺境内に設けられた「霊柩車庫」に保管されていた。

(3) 寄託 3件

1	ぼっすいとくしょうぼくしよ 拔隊得勝墨書	1幅	向嶽寺の開山である拔隊得勝の墨書。山梨県指定文化財。「向嶽拔隊老納」と中央に大書し、「拔隊」(朱文方印)「得勝」(白文方印)の印が捺されている。もとは向嶽寺で所有していたものが、末寺にあたる正覚寺に移されたものと考えられている。
2	ふじおむろせんげんじんじや 富士御室浅間神社 もんじよ 文書	31点	富士御室浅間神社(富士河口湖町勝山)に伝わる古文書。県指定文化財3件26点を含む。
3	わかおまさひろけしりよう 若尾昌宏家資料	10点	若尾家の末裔に伝来する資料。書を趣味とした若尾逸平の晩年の揮毫や履歴書、一族にまつわる古写真などから構成される。

【審議結果】

すべて収集が適正であると判断され、3月30日付けで答申が出された。

令和7年度「みんなでつくる博物館協議会」の開催状況について

1. 第1回開催状況

【日 時】 令和8年2月19日（木）14時～16時

【場 所】 山梨県立博物館 生涯学習室

【出席者】

（委 員） 古屋真弘委員長、成澤治子委員長代理、安達義通委員、一瀬栄政委員、長田由布紀委員、北原対馬委員、鞍内大輔委員、佐野隆委員、田所美香委員、戸田達昭委員、内藤慶子委員、堀川浩二委員

（事務局） 守屋正彦館長、柳沢章司副館長、前田正一郎総務課長、近藤暁子学芸課長、石神孝子企画交流課長、稲田正徳総務担当リーダー、小畑茂雄学芸担当リーダー、丸尾依子企画交流担当リーダー、望月佑太郎主事

【内 容】 1 県民参画事業の再検討について
2 山梨県立博物館総合評価について

2. 協議会委員の改選について

【経 緯】

・令和7年

10月31日 みんなつく任期終了（R5年11月1日～）

8月1日 事務局において改選に伴う委員選定に着手

10月3日 文化振興・文化財課より知事へみんなつく改選の報告メモを提出

10月29日 文化振興・文化財課より改選案について承認の連絡

【任 期】

令和7年11月1日から令和9年10月31日まで

【委 員】

別紙のとおり

山梨県立博物館みんなでつくる博物館協議会 委員

※五十音順

令和7年11月1日現在

	氏名	職種	性別	在職年
1	アダチヨシミチ 安達義通	山梨県立大学 教授	男	2
2	イチノセナガマサ 一瀬栄政	市川小学校 校長	男	2
3	オサダユウキ 長田由布紀	ボイスルーム 代表	女	0
4	キタハラツシマ 北原対馬	山梨銘醸株式会社 代表取締役	男	4
5	クラウチダイスケ 鞍内大輔	農山村の元気づくり専門家	男	2
6	サノタカシ 佐野隆	NPO茅ヶ岳歴史文化研究所	男	2
7	シライヒデノリ 白井秀典	きっかけデザイン研究所	男	2
8	タドロミカ 田所美香	(株)印傳屋上原勇七 印伝博物館	女	0
9	トダツアキ 戸田 達昭	シナプテック株式会社 代表取締役	男	14
10	ホリカワコウジ 堀川浩二	日本旅行 甲府支店 支店長	男	0
11	ナイトウケイコ 内藤慶子	NPO法人にららん♪ 代表	女	0
12	ナカハラユウコ 中原優子	寺子屋プロジェクト事務局	女	0
13	ナルサワハルコ 成澤治子	甲府市役所企画財務部企画財務総室	女	2
14	フルヤマサヒロ 古屋真弘	浅間神社 宮司	男	2
15	ヤマシユカリ 山下ゆかり	木創の宿きこり 女将	女	2

